

ICOM

(No. 3)

IC-2i/IC-3i

icom Inc.

■シンプルモードとは

通常交信に必要な、基本機能のみで動作するようにしたモードで、本体付属の取扱説明書の操作ができます。

■多機能モードとは

シンプルモードの基本機能に加えて、いろいろな機能を使って交信したり、オプションを付加して運用したり、各種の運用条件を変えたりできるモードです。

多機能モードには、次の3種類の運用タイプ(型)があり、あらかじめお好みにより選択しておきます。

A. 全機能型(ALL)

本機が持つすべての機能を、いつでも自由にセットして運用することができます。

B. 機能選択型(SEL)

あらかじめ、使いたい機能だけを選択しておく方法で、機能の呼び出しがスピーディになります。

C. 成長型(auto)

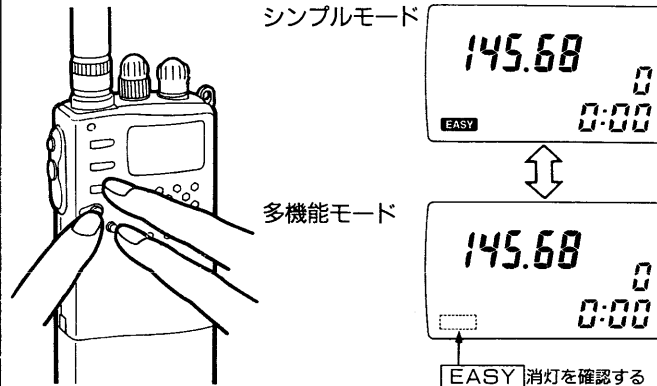
本機の使用頻度(交信回数や各機能の使用回数など)に応じて、自動的に使用できる機能が増える(成長する)ようにしています。

※運用タイプの切り替えはⅢ項をご覧ください。

多機能モードにするには

①いったん、電源をOFFにする。

②(V/M)と(LIGHT)を押しながら、(POWER)を押し、電源を入れる。



●シンプルモードに戻すときも、同じ操作です。

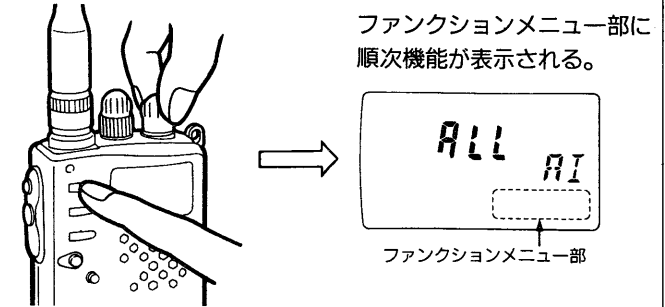
●上記操作で多機能モードにしたとき、前回セットしていた運用タイプになります。(初期時は全機能型)



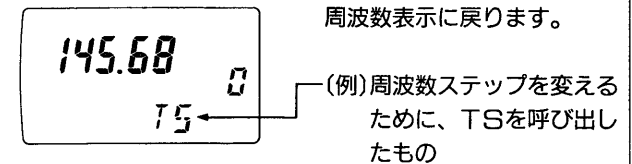
各種機能の呼び出しかた

多機能モード中は、次の操作で使いたい機能を呼び出します。

①(S)を押しながら、(ダイヤル)を回す。



②機能を呼び出せば、(S)を離す。



周波数表示に戻ります。

(例)周波数ステップを変えるために、TSを呼び出したもの

③以下、呼び出した機能の使いかたは、それぞれの機能説明欄へ進んでください。

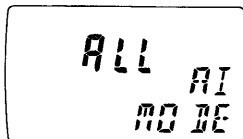
多機能モードで扱える機能の一覧表

コード	機能表示	機能の概要	説明欄の見出し番号↓
S	SET	セットモードの運用	11
	SKIP	スキップチャンネルの設定	6
P	PRIO	プライオリティスキャンの運用	6
E	TONE	UT-72を使ったトーンスケルチの運用	1
	TS	周波数ステップの設定	2
	DUP	デュプレックス運用(IC-3iのみ)	5
C	0:00	時刻の表示と設定	
	TIME	各種タイマーの設定	9
	SCAN	スキャンおよびスキップスキャンの運用	7
I	SKIP	マスクチャンネルの設定	4
A	DTMF	DTMFコードの運用	6
	PGR	ページャー/コードスケルチの運用	10
L		ディスプレイランプの使用解禁	

↑機能選択型または成長型るとき、このSPECIALコードの表示が、運用できる機能を表わしています。くわしくは、Ⅲ-2機能選択型の説明をご覧ください。

運用タイプの切り替えかた

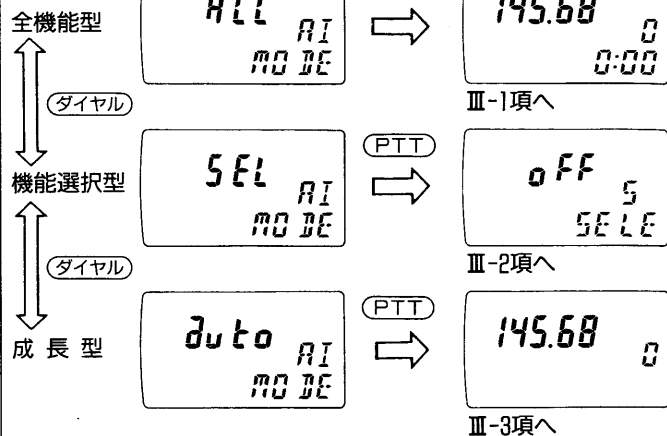
- ①多機能モードになっていることを確認したのち、いったん電源を切る。
 ②(S)と(V/M)を押しながら、(POWER)を押し、電源を入れる。



初期時は“ALL”が表示される。

- ③(ダイヤル)を回す。

- ④(PTT)を押す。

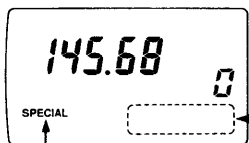


(注)全機能型、成長型の場合は、④の操作から運用に入れます。機能選択型の場合は、III-2へ進んでください。

全機能型 ALL

全機能型は、すべての機能を順次呼び出すことができます。(SPECIALコードの点灯に関係なく)

- 以下、IIの各種機能の呼び出しかたを操作し、各機能の運用に入ってください。



SPECIALコードの表示 (III-3(注)をご覧ください)

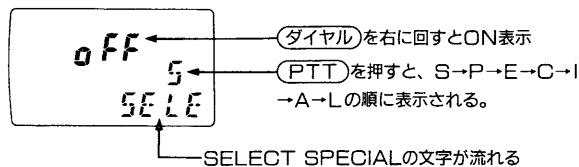
ファンクションメニュー部に表示される機能は、最近使ったものから古いものへと、自動的に並び換えます。

機能選択型 SEL

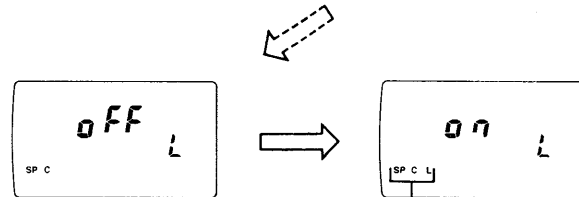
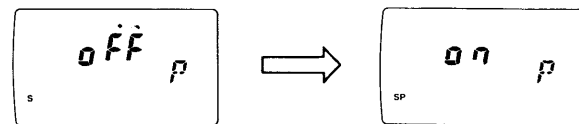
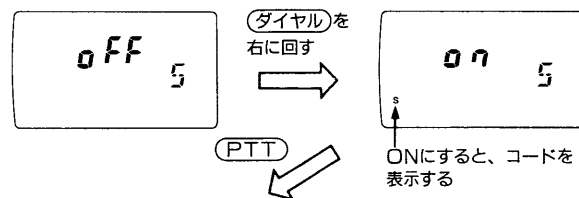
機能選択型は、使いたい機能だけを呼び出せるようにしています。あらかじめ、使いたい機能を下記の操作で決定しておきます。

■SPECIALコードを選択する

前記、多機能モードで扱える機能の一覧表に示すように、各機能をSPECIALコードに対応させています。使いたい機能は、このSPECIALコードを次の操作で点灯させておきます。
 1.左欄III-④の操作を行うと、SPECIALコードを決定するための表示になる。

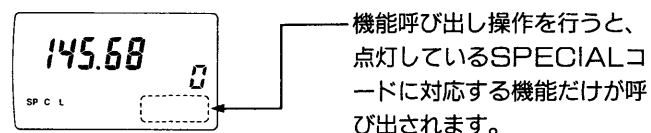


2. SPECIALコード決定操作



*ONにするときは(ダイヤル)を右に回し、OFFにするときは左に回す。

3.“L”まで決定すれば(PTT)を押すと周波数表示に戻る。

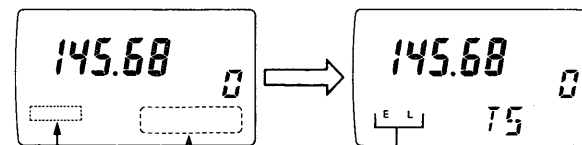


成長型 auto

成長型は、機械の使用回数(各スイッチの使用回数)に応じて、使える機能を自動的に増加させます。使えるようになった機能は、SPECIALコードを点灯させます。

成長型のイニシャル時

交信や各スイッチ操作を相当数、経験したとき



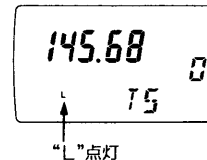
SPECIALコードが表示されないで、各機能を呼び出して運用することができない。

SPECIALコードのいずれかが点灯したとき、それに対応する機能のみが使えるようになる。

(注)この成長型のSPECIALコード(機能の増えかた)は、全機能型に関連しています。全機能型で運用中に自動的にコードが点灯しますので、全機能型から成長型に切り換えたときは、点灯しているコードの機能が使用できます。

SPECIALコードの補足説明

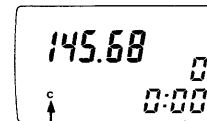
1. ディスプレイの照明ランプの運用について



“L”点灯

- 機能選択型の場合
SPECIALコードの選択操作で、“L”を点灯させておきます。
- 成長型の場合
“L”が点灯するまで、照明ランプは使えません。ただし(LIGHT)スイッチを25回以上押しと“L”が点灯します。

2. 時刻表示について



“C”点灯

- 時刻の表示および設定も一つの機能として扱いますので、
- 機能選択型の場合
SPECIALコードの選択操作で“C”を点灯させておきます。
- 成長型の場合
“C”が点灯するまで扱えません。

3. SPECIALコードをクリア(消去)するには
 成長型(全機能型)でSPECIALコードがだんだんと増えてきたとき、これを原点に戻すことができます。

- ①いったん電源を切る。
 ②(S)と(MONI)を押しながら、電源を入れる。

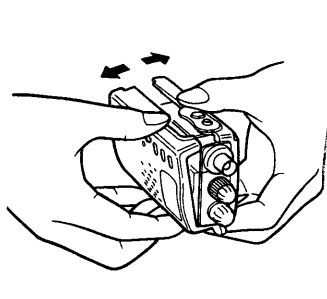
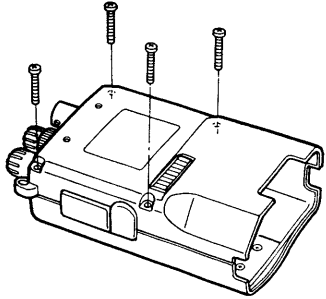
- 各機能の説明は、全機能型で例をあげ、SPECIALコードは表示していません。

トーンスケルチUT-72の取付けかた

■トランシーバーの分解方法とご注意

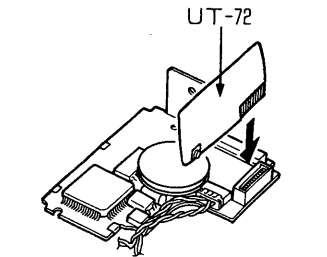
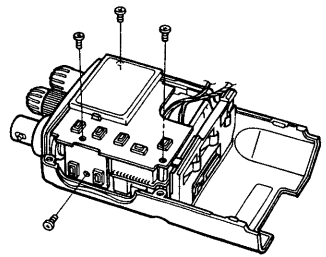
- 電源を切り、バッテリーパック、外部電源を外しておきます。
- ドライバーは、ネジ山によくあったものを用いてください。

- ① 本体背面から、図の位置にあるネジ(4本)を外す。
- ② 本体の前面部と後面部にわかれるように開けてください。



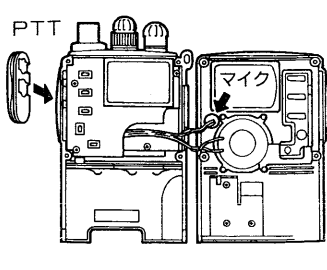
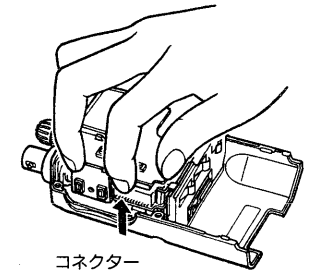
- ③ さらに、図の位置のネジ(4本)を外し、基板を抜く。

- ④ 基板の裏側から、図のようにオプションユニットUT-72を差し込む。



- ⑤ 基板を元どおり本体に取り付け、ネジ止めする。コネクターをきっちり差し込んでください。

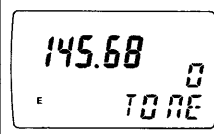
- ⑥ 組み立て時は、マイクやPTTスイッチを、図の位置にセットし、前面部と後面部を合わせる。



取り付け完了後、多機能モードにしてください。シンプルモードでは、運用できません。
なお、全機能型/成長型にすると、自動的に“E”が点灯します。

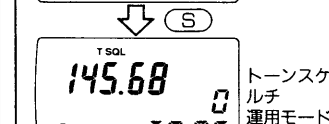
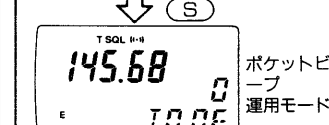
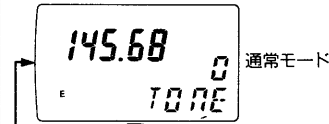
トーンスケルチの運用のしかた

ファンクションメニューを“TONE”表示しておく。(“E”が自動的に点灯する。)機能選択型/成長型の場合は、“E”が点灯していること。



■トーン運用モードの設定

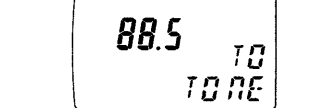
- ① (S)を押す。(ワンタッチ) (S)をワンタッチ押すごとに、運用モードが変わります。



- 右枠のトーン周波数を設定したのち、上記運用モードを設定し、通常運用と同様に交信を行います。

■トーン周波数の設定

1. (F)を押しながら(S)を押す。
トーン周波数表示になります。



2. (ダイヤル)を回す。
(ダイヤル)を回すことにより、次表のトーン周波数の中から選択することができます。

トーン周波数一覧表		
67.0	107.2	167.9
71.9	110.9	173.8
74.4	114.8	179.9
77.0	118.8	186.2
79.7	123.0	192.8
82.5	127.3	203.5
85.4	131.8	210.7
88.5	136.5	218.1
91.5	141.3	225.7
94.8	146.2	233.6
97.4	151.4	241.8
100.0	156.7	250.3
103.5	162.2	単位:Hz

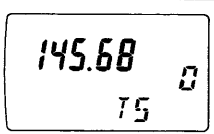
3. (S)または(PTT)を押し、元の運用モードに戻す。

※この機能を運用するには、オプション(UT-72)が必要です。

- トーンスケルチ機能とは
特定局(同じトーン周波数を含んだ信号)の待ち受け受信中に呼び出しを受けると、トーンスケルチが開いて通話内容が聞えますので、快適な待ち受け受信が行なえます。
- ポケットビープ機能とは
特定局(同じトーン周波数を含んだ信号)の待ち受け受信中に呼び出しを受けると、30秒間ビープ音(“ピロピロピロ”の連続音)が鳴り続け、同時に“(●●●)”を点滅して知らせますので、聞き逃すことがありません。呼び出しを受けたら、30秒以内にPTTスイッチを押して通話するか、Sスイッチを押してポケットビープ機能を解除(“(●●●)”が消灯する)して、トーンスケルチ機能にします。また、30秒経過しても何も操作しなかった場合、ビープ音は自動停止しますが、ディスプレイの“(●●●)”は点滅状態を続け、呼び出しの受けたことを知らせます。

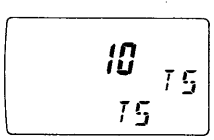
周波数ステップ(TS)の変更のしかた

ファンクションメニューを“TS”表示しておく。
機能選択型/成長型の場合は、“E”が点灯していること。

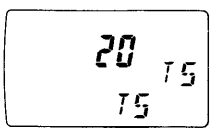


■TSの設定操作

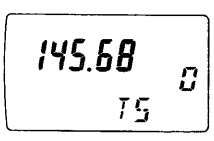
1. (S)を押す。
TS表示になります。



2. (ダイヤル)を回す。
周波数ステップは、次の8種類の中から選んでください。
5-10-12.5-15-20-25-30-50



3. (S)または(PTT)を押すと、元の周波数表示に戻る。



4. 以後、ダイヤルを回すと、上記2で設定した周波数ステップになります。

TSとは、周波数ステップのことで、通常はダイヤルを回すと、10kHzステップで周波数が変化します。

上記操作により、8種類のステップが選択できますが、このステップは、周波数スキャンのステップも共通です。

- 通常、144MHz帯(VHF)、430MHz帯(UHF)のアマチュア通信には、慣例で20kHzステップが多く使われています。

ご注意

- 多機能モードで設定した周波数ステップは、多機能モードのときのみに有効で、シンプルモードに戻しますと、周波数ステップは10kHzステップのみとなります。

メモリーが100CHで使えます

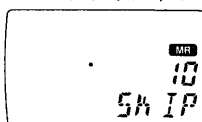
多機能モードの全機能型にすると、メモリーチャンネルを0～99の100チャンネルに拡張して運用ができます。
また、機能選択型の場合は、“1”を選択することにより、100チャンネルまで拡張できます。

■10～99チャンネルの呼び出しがた

メモリーチャンネルの10～99は、初期時はマスクされています。したがって、通常の操作(メモリーモードにして(ダイヤル)を回す)では、呼び出しができません。

1. (V/M) を押し、メモリーモードにする。
2. (F) を押しながら、(ダイヤル) を回す。
10～99CHまでの呼び出しができますがすべてマスクされています。

マスクチャンネル



■通常のメモリーとして使うには

マスクチャンネルを通常のメモリーとして使用する場合、次の2とおりがあります。

(1) VFOにしたのち、メモリーへ書き込みを行う。

1. (V/M) を押し、VFOモードにする。
2. 希望の周波数をセットする。
3. (F) を押しながら、(V/M) を約1秒(ピッピピ)押す。

(2) マスクを解除する。

右欄 4 の(2)をご覧ください。

■メモリーに記憶できる情報の内わけ

多機能モードにすると、メモリーの拡張と同時に、各種の情報も記憶することができます。

0～9 CH : 運用周波数, DUP指定, オフセット周波数, T/T SQL指定, トーン周波数, SKIP指定。

10～99CH : 運用周波数, DUP指定, T/T SQL指定, SKIP指定。

PA, PB CH : 運用周波数, DUP指定, T/T SQL指定。

※PA, PB CHは、ファンクションメニューに“SCAN”を表示させたときに、呼び出すことができます。

拡張したメモリーを効率よく使うために

③ スキップチャンネルの指定

ファンクションメニューを“SKIP”表示しておく。
機能選択型/成長型の場合は、“S”が点灯していること。(メモリー拡張時は“S”と“1”)

145.68
MR 0
5K IP

(1) スキップの指定のしかた

1. (V/M) を押し、メモリーモードにする。

145.00
MR 0
5K IP

2. (ダイヤル) を回し、スキップを指定したいチャンネルを呼び出す。

144.26
MR 15
5K IP

3. (S) を押し、“SKIP”を点灯させる。
(S) を1回押しごとに“SKIP”が点灯/消灯を繰り返します。

144.26
SKIP MR 15
5K IP

(2) スキップの解除のしかた

1. スキップ指定されたチャンネルを呼び出す。

144.26
SKIP MR 15
5K IP

2. (S) を押し、“SKIP”を消灯させる。

144.26
MR 15
5K IP

スキップ指定を行うと

メモリーを拡張したのち、メモリースキャンを行うと、書き込みを行ったチャンネルのすべてをスキャンします。このスキャンを効率よくするために、スキャンしなくてもよいチャンネルにスキップ指定を行うと、メモリースキップスキャンになります。

多機能モードからシンプルモードに戻したとき、メモリー0～9CHはそのまま運用できます

多機能モードからシンプルモードに戻すと、メモリーチャンネルは、再度0～9CHまでしか使えなくなりますが、多機能モード中に0～9CHに記憶させた内容は、すべて残ります。(スキップ、マスク指定は解除されます)

④ マスクチャンネルの指定

ファンクションメニューを“SKIP”表示しておく。
機能選択型/成長型の場合は、“1”が点灯していること。

145.68
MR 0
5K IP

(1) マスクの指定のしかた

1. (V/M) を押し、メモリーモードにする。

145.00
MR 0
5K IP

2. (ダイヤル) を回し、マスク指定したいチャンネルを呼び出す。

144.38
MR 18
5K IP

3. (F) を押しながら、(S) を押す。
周波数表示が消えます。
再度、この操作で、元の周波数が表示されます。
※メモリーの0CHはマスクできません。

MR 18
5K IP

(2) マスクの解除のしかた

1. マスクされたチャンネルを呼び出す。
(F) + (ダイヤル)

MR 18
5K IP

2. (F) を押しながら、(S) を押す。
マスクする前の情報が、そのままに表示されます。

144.38
MR 18
5K IP

マスク指定を行うと

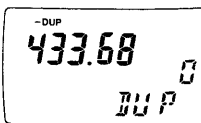
マスクされたチャンネルは、(ダイヤル) だけの呼び出しはできませんから、メモリー呼び出しが効率よくできます。
また、あまり使わない周波数でも、記憶しておいていつかの機会に使いたいときなどに、マスクをしておけば便利です。

例えば、T SQL 運用モードと、トーン周波数を記憶させている場合、シンプルモードでトーンスケルチが運用できます。
なお、再度多機能モードにしたときは、10CH以上のメモリーはそのまま記憶されています。

5 DUPLICATIONモードとオフセット

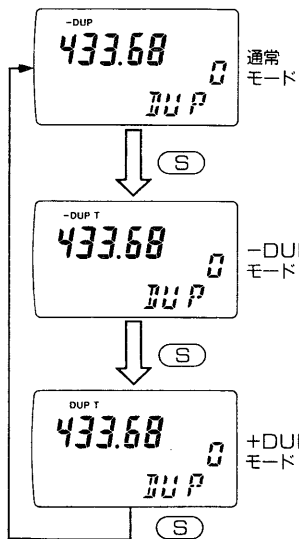
この機能は、IC-3iのみで、439MHz以上の周波数をセットすると、自動的にレピータ運用モードになります。439MHz以下では、DUPLICATIONモードとそのシフト周波数(オフセット)が設定でき、送信と受信とが異なる周波数で動作します。

ファンクションメニューを“DUP”表示にしておくこと。
機能選択型/成長型の場合は、“E”が点灯していること。



■運用モードの設定

(S)を押す。
(S)を押すごとに、運用モードが変わります。



■オフセットの変更

1. (F)を押しながら、(S)を押す。
オフセット表示になります。

2. (ダイヤル)を回す。

●0~60MHzの範囲で、セットができます。
※(F)を押しながら、(ダイヤル)を回すと100kHzステップになります。

3. (S)または(PTT)を押すと元の運用モードに戻る。

-DUPモード：送信周波数が受信周波数より、オフセット周波数分低くなる。

+DUPモード：上記の逆で高くなる。

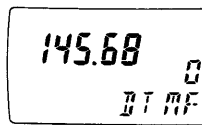
■オートレピータ機能をOFFにするには

439MHz以上の周波数になると、オートレピータ機能となりますが、次の方法でOFFにすることができます。

- 1.ファンクションメニューを“SET”にする。
- 2.セットモードの項目をAR(オートレピータ)にする。
- 3.ARをOFFにする。※セットモードの⑧項参照

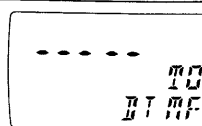
6 DTMFコードの取り扱い

ファンクションメニューを“DTMF”表示にしておく。
機能選択型/成長型の場合は、“A”が点灯していること。



1. DTMFメモリの呼び出し

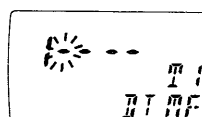
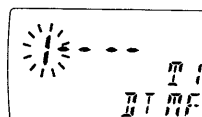
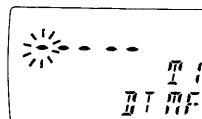
1. (S)を押す。
DTMFメモリを表示します。
2. (ダイヤル)を回す。
メモリは、T0~TFの16CHあり、1つのメモリに15桁までのコードを記憶できます。



DTMFメモリCH
T0~TFの16CHダイヤルで切り替え

2. DTMFコードの記憶のしかた

- 1.上記の操作で、記憶させたいメモリを呼び出す。
- 2.(F)を押しながら(S)を押す。
1桁目が点滅します。
- 3.(ダイヤル)を回し、コード(0~F)を設定する。
- 4.(S)を押す。
点滅が次の桁に移ります。
- 5.(ダイヤル)を回して、コードを設定する。
以下、3,4の操作を繰り返す。
- 6.(F)を押す。
点滅が止まり、記憶されます。
- 7.(PTT)を押す、周波数表示に戻す。
※次のメモリに移るときは、(ダイヤル)を回す。

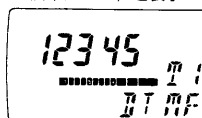


表示は5桁ごとに切り替わり、15桁まで入力できる。

3. DTMFコードの送出手続き

- 1.送出したいメモリを呼び出し、周波数表示に戻す。
- 2.(PTT)を押しながら(S)を押す。

送信中はコードを表示

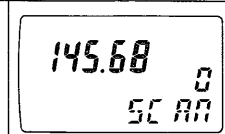


※記憶させたメモリを呼び出し、(S)を押すと、記憶内容の確認ができます。

7 周波数スキップについて

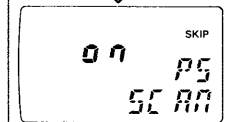
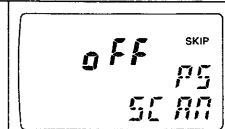
周波数スキップを行うと、不要な信号で停止することがあります。この不要な周波数をスキップ周波数として登録することにより、次回からのスキップがスムーズにできます。

ファンクションメニューを“SCAN”表示にしておく。
機能選択型/成長型の場合は、“S”と“C”と“I”が点灯していること。



(1) スキップスキップ機能をONにする

- 1.(F)を押しながら、(S)を押す。
- 2.(ダイヤル)を回し、“ON”表示にする。
- 3.(S)または(PTT)を押す、周波数表示に戻す。



(2) スキップ周波数の登録のしかた

- 1.VFOモードにし、(S)を押してスキップをスタートさせる。
 - 2.信号を受信して、スキップが一時停止したとき、その周波数が不要であれば、(F)を押しながら、(V/M)を約1秒押す。(ピピピが鳴るまで)
99CHにスキップ周波数として登録されます。以下、一時停止中に3の操作を行いますと、順次登録されます。
登録は99~10CHまでの90CH可能です。
- 以上の操作で登録された周波数は、以後に行うすべてのスキップから除外されます。

信号受信で停止中
(F)+(V/M)を押す



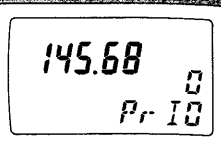
この周波数は、以後のスキップではスキップされる。また、メモリスキップ時も、99CHはスキップされる。

■登録の取り消しかた

- 登録されたスキップ周波数を、元どおり復帰させるには、
- 1.スキップ指定を解除する。(スキップチャンネルの指定の項参照)
 - 2.スキップスキップ機能をOFFにする。(上記(1)項参照)

⑨ プライオリティスキャンのしかた

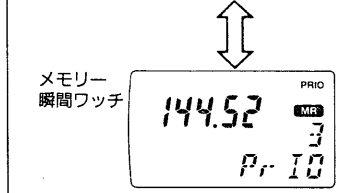
ファンクションメニューを“PRIO”表示にしておく。
機能選択型/成長型の場合は、“P”が点灯していること。



プライオリティスキャンは、VFOと指定メモリー間で行うものと、VFOとメモリー順次スキャンの2種類があります。

■VFOと指定メモリー

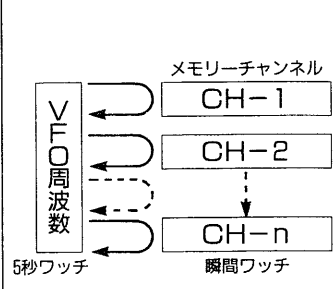
- VFO周波数を設定する。
- ワッチしたいメモリーチャンネルを呼び出す。
※1と2の操作は、どちらが先でもかまいません。
- (S)を押す。
プライオリティスキャンがスタートします。



VFO周波数を約5秒ワッチし、メモリーチャンネルを瞬間的にワッチする動作を繰り返して行います。

■VFOとメモリー順次

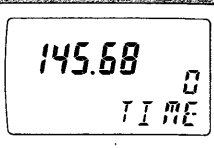
- メモリースキャンをスタートさせる。
①メニューを“SCAN”表示にする。
②メモリーモードにする。
③(S)を押す。
メモリースキャンがスタートします。
- スキャンが動作中に(S)を押しながら、(ダイヤル)を回し“PRIO”表示にする。
- (S)を押す。
メモリー順次スキャンがスタートします。



- メモリーチャンネルで信号を受信すると、スキャンが一時停止し約15秒後、VFOに戻り再スタートします。
- プライオリティスキャンを解除するには
①VFO周波数をワッチしているときは、(S)を押す。
②メモリーチャンネルで停止しているときは、(S)を押すとVFOに戻るため、もう1回(S)を押す。
●停止しているメモリーチャンネルで送信する場合は、
①(S)を押す。(VFOに戻ります。)
②(V/M)を押す、メモリーモードにする。
③(PTT)を押す、送信する。

⑨ タイマーのセットのしかた

ファンクションメニューを“TIME”表示にしておく。
機能選択型/成長型の場合は、“C”が点灯していること。



タイマーは、次の3種類があります。
一定時間後に電源をOFFにするオートパワーオフ
指定の時刻に電源をONにするオンタイマー
指定の時刻に電源をOFFにするオフタイマー

■各タイマーを呼び出すには

(S)を押す。(S)を押すごとに、タイマーの種類が切り替わります。

- オートパワーオフ
- オンタイマー
- オフタイマー

(1) オートパワーオフのセット

- (S)を押す、オートパワーオフの表示にする。
- (ダイヤル)を回し20/40/60(分)を選択する。
- (PTT)を押す、元の運用モードに戻る。
- 設定した時間(分)を経過すると、ディスプレイの表示がすべて消灯し、パワーオフ状態になります。

このタイマーは、電源の切り忘れをカバーするためのもので、1回セットすると、電源を入れるたびにタイマーが動作します。

(2) オンタイマーのセット

- (S)を押し、オンタイマー表示にする。
- (ダイヤル)を右に回して、時刻セット状態にする。
- (F)を押しながら、(V/M)を押す。
- (ダイヤル)を回し、“時”をセット。
- (S)を押す。
- (ダイヤル)を回し、“分”をセット。
- (F)を押す。
- タイマー時刻のセットが完了すれば、
- (PTT)を押す。
- (POWER)を押す、電源を切る。
- タイマー時刻になると、運用状態に戻る。

タイマーを解除するには：オートパワーオフタイマーの解除は、“OFF”にセットします。オンまたはオフタイマーの解除は、上記2の操作で(ダイヤル)を左に回し、オンまたはオフマークを消灯させます。なお、これらのタイマーは複合して使用することができます。

(3) オフタイマーのセット

- (S)を押し、オフタイマー表示にする。
- (ダイヤル)を右に回して、時刻セット状態にする。
- (F)を押しながら、(V/M)を押す。
- (ダイヤル)を回し、“時”をセット。
- (S)を押す。
- (ダイヤル)を回し、“分”をセット。
- (F)を押す。
- タイマー時刻のセットが完了すれば、
- (PTT)を押す、周波数表示に戻り、タイマーがスタートする。
- タイマー時刻になると、パワーオフ状態になる。

タイマーを解除するには：オートパワーオフタイマーの解除は、“OFF”にセットします。オンまたはオフタイマーの解除は、上記2の操作で(ダイヤル)を左に回し、オンまたはオフマークを消灯させます。なお、これらのタイマーは複合して使用することができます。

■ページャー/コードスケルチ機能とは

- ページャー機能
この機能は、ある特定局との待ち受け、呼び出しを行う場合に大変便利な機能です。
あらかじめ、交信相手と個別コードやグループコードを決めておくことにより、特定の相手局の呼び出し/待ち受け、グループ呼び出し/待ち受けなどができます。また、呼び出されたときはピーブ音(ピロピロピロ…)で知らせると共に、呼び出した側のコードも表示されるので、確実な待ち受けをすることができます。
- コードスケルチ機能
この機能は、ある特定局との交信を行う場合に、大変便利な機能です。自局でセットしたコードと同じコードを受信したときのみ、スケルチが開き通話内容が聞こえますので、特定局との交信ができ、従来のトーンスケルチと同様の運用ができます。また、トーンスケルチとの併用もできます。
- 局コードについて
ページャーおよびコードスケルチを運用する場合、自局と相手局(グループも含む)のコードを、あらかじめ打合せて、決めておきます。コードは3桁の数字で組み合わせます。

■コードメモリーの機能について

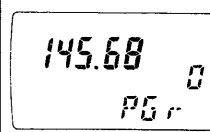
あらかじめ決めておいた個別コードやグループコードを、書き込んでおくチャンネルをコードメモリーといいます。

メモリーナンバー	用途	待ち受け動作	コードの書き替え
C0	自局の個別コード	常時可能	可能
C1	相手局の個別コード またはグループコード	待ち受け「拒否」と待ち受け「応答」を選択できる	
C2			
C3			
C4			
C5	受信した相手局のコード	動作しない	不可
CP			

- ①メモリーナンバー[C0]
自局の個別コードを書き込むメモリーです。
このコードは、ページャーおよびコードスケルチ機能のどちらにも使用され、このコードで呼び出しを受けると、スケルチを開きます。またページャー運用時は、このコードも相手局に送出します。
- ②メモリーナンバー[C1~5]
相手局の個別コードまたはグループコードを書き込むメモリーです。
送信時は、このメモリーC1~C5のいずれかをセットしておくことで、相手局コードを送出します。
待ち受け時、このいずれかのコードで呼び出しがあると、スケルチを開きますが、自局に関係のない呼び出しに対してもスケルチを開きますので、呼び出しに対して「拒否」、「応答」の選択が、あらかじめセットできます。
- ③メモリーナンバー[CP]
ページャー機能で呼び出しを受けたとき、相手局の個別コードが自動的に書き込まれるメモリーです。

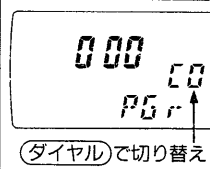
■運用のしかた

ファンクションメニューを“PGR”表示にしておく。
機能選択型/成長型の場合は、“A”が点灯していること。



(1)コードメモリーの呼び出ししかた

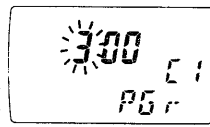
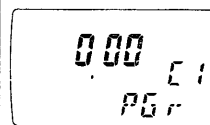
1. (F)を押しながら(S)を押す。
コードメモリー表示になります。
2. (ダイヤル)を回す。
C0-C1-C2-C3-C4-C5-CPの切り替えができます。



(2)コードの設定のしかた

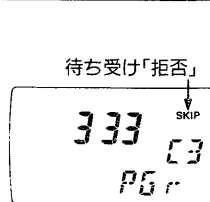
C0には自局コード、C1~C5には相手局(グループ)コードを書き込む

1. 上記(1)の操作で、コードメモリーを呼び出す。
2. (F)を押しながら、(S)を押す。
1桁目が点滅します。
3. (ダイヤル)を回して、1桁目をセットする。
4. (S)を押す。
2桁目に移ります。以下、同じ操作で3桁セットします。
5. (F)を押す。
点滅が止まり、書き込み完了です。
6. (ダイヤル)を回すと、次のメモリーに、(PTT)を押すと、周波数表示になります。



(3)待ち受け機能の選択のしかた

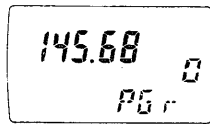
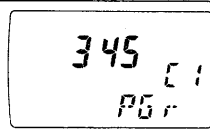
1. 上記(1)の操作で、コードメモリーを呼び出す。
2. (V/M)を押す。
(V/M)を押すごとに、“SKIP”表示が点灯/消灯する。



待ち受けの選択は、グループの中で他局同士が呼び出しをかけたとき、C1~C5のメモリーにそのコードが書き込まれていると、関係のない受信をすることになり、これを防ぐために、待ち受け拒否を行います。
※C0メモリーは、「拒否」の指定はできません。

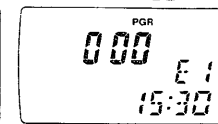
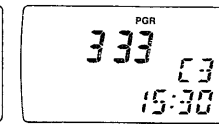
(4)ページャー/コードスケルチの送信のしかた

1. 呼び出しをかける相手局のコードが書き込まれたメモリー(C1~C5)を呼び出す。(左欄(1)の操作)
2. (PTT)を押し、周波数表示にしたのち運用周波数を設定する。
3. (S)を押す。
(S)を押すごとに“PGR”と“C SQL”の運用モードが設定できます。
4. (PTT)を押し、送信する。(1~2秒)
このとき、コードを送出します。
345 × 001 ※C SQL時は
相手コード 自局コード 相手コードのみ
C1~C5のいずれかにセットしたコード
5. 相手局から応答を受信すれば、(S)を押し、“PGR”“C SQL”を消灯させ、通常の周波数表示にする。
6. 通常の交信に入ります。



(5)ページャー/コードスケルチの受信は

相手局からの呼び出しを待ち受ける場合は、(S)スイッチで“PGR”または“C SQL”モードにしておきます。
相手からのコードを受信すると、次の表示になります。(PGR時)
自局コードで呼び出されたとき グループコードで呼び出されたとき 相手コードが判別できなかったとき

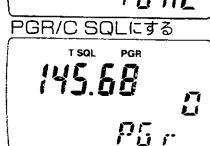


※相手局コードが表示される

※相手コードはCPにメモリーされる

トーンスケルチと併用ができる

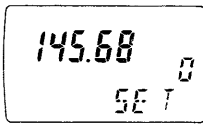
- トーンスケルチユニット(UT-72)を装着しているときは、併用運用ができます。
- 1. ファンクションメニューを“TONE”表示にし、“T SQL”運用モードにする。
- 2. ファンクションメニューを“PGR”表示にし、“PGR”または“C SQL”にする。
※このときも、呼び出し確認後は、“PGR”または“C SQL”を消灯して交信します。



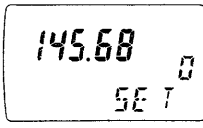
11 セットモードについて(初期設定された運用条件を変更するには)

セットモードに入るには

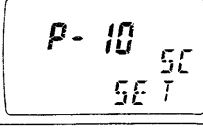
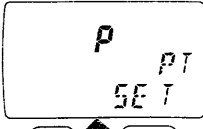
ファンクションメニューを“SET”表示しておく。
機能選択型/成長型の場合は、“S”が点灯していること。



1. (V/M) を押し、VFOモードにする。
※メモリーモードからは、セットモードに移れません。

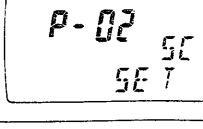
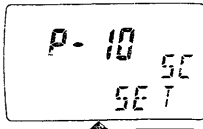


2. (S) を押す。
セットモードになり、以後 (S) を押すごとにセット項目(ガイダンス)が切り替わります。
(V/M) を押すと、セット項目は逆に回ります。



セット項目が表示されたら

3. (ダイヤル) を回す。
(ダイヤル) を回すことにより、初期設定されている内容を、変更することができます。



内容の変更が終わったら

4. (PTT) を押す。元の運用表示に戻ります。

変更後の運用について

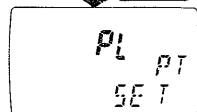
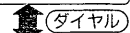
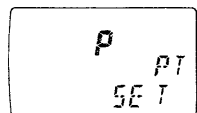
- セットモードでは、右欄に示すような項目について、運用しやすい条件に変更できます。
- 変更した内容は、多機能モードで運用するかぎり有効です。
- シンプルモードにすると、セット内容はすべて初期設定値(右欄の上のディスプレイの状態)に戻ります。

セットモードで変更できる運用条件とは

※ディスプレイの上側の表示が、出荷時に初期設定されたものです。

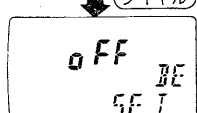
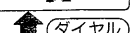
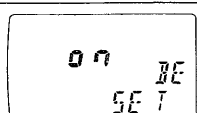
①PTTの働きを無効にする

- (PTT) スイッチを押すと、送信状態になりますが、送信中は電池の消耗が厳しくなります。
このため、まちがって(PTT) を押ししても送信にならないようにする機能です。
- “PL”表示にすると、(PTT) の送信機能のみ無効にします。



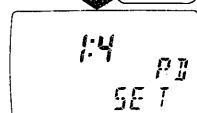
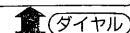
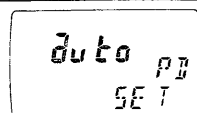
②ビーブ(操作音)を無効にする

- 操作が正しく行われたかどうかをビーブ音で知らせていますが、このビーブ音が鳴らないようにする機能です。
- “OFF”表示にすると、ビーブ音が出なくなります。



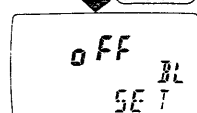
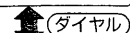
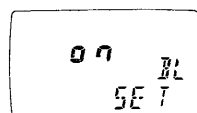
③パワーセーブの時間比を設定する

- 電池の消耗を防ぐため、待受け状態のとき、パワーセーブ機能を働かせています。
- 待受け状態と休止状態の時間比を設定する機能です。
- “OFF”表示にすると、パワーセーブは動作しません。
※通常は、AUTOにしています。(取扱説明書をご覧ください。)



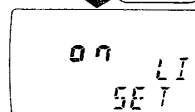
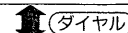
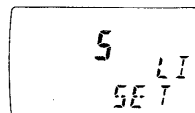
④受信ランプの点灯をなくする

- 信号を受信すると、受信ランプが緑色に点灯します。
電池の消耗を防ぐためのもので、受信しても点灯しないようにする機能です。
- “OFF”表示にすると、受信ランプが点灯しなくなります。
※送信(赤)ランプは点灯します。



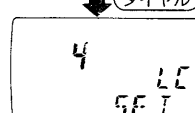
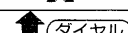
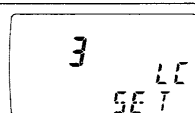
⑤ディスプレイ照明を手動にする

- ディスプレイの照明は、通常5秒間で自動消灯します。
- “ON”表示にすると、(LIGHT) スイッチのON/OFF操作で、点灯/消灯ができ自動消灯がなくなります。



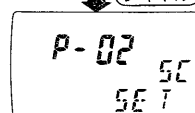
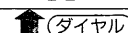
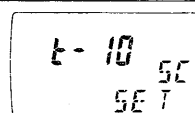
⑥ディスプレイの表示の濃淡を変える

- ディスプレイの表示は、周囲の明るさによって見やすさが変わります。
周囲の条件に応じて、いちばん見やすくするためのものです。
- 通常は“3”にセットされていますので、1~4までの見やすいところにセットしてください。



⑦スキヤンの再スタート条件を変える

- スキヤン中、信号受信で一時停止したときから、再スタートするタイマーを変更することができます。
- t-10 : 信号受信10秒後スタート。
- t-05 : 信号受信 5秒後スタート。
- P-02 : 信号が途切れるまで受信し、途切れてから2秒後にスタートする。
- t-E-P : 空きチャンネルを探すためのスキヤンで、信号のないところで停止させる。



⑧オートレピータ機能を無効にする

- この項目は、IC-3iのみです。
- 490MHz以上の周波数に設定するとオートレピータ機能が動作します。(取扱説明書をご覧ください。)
- “OFF”表示にすると、オートレピータ機能が無効になります。

